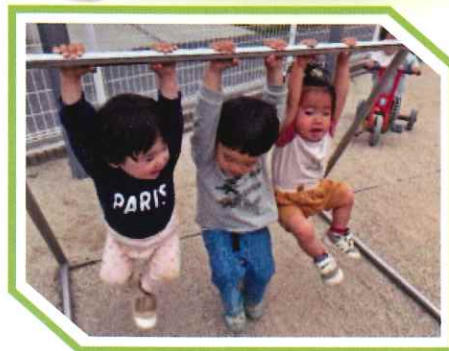
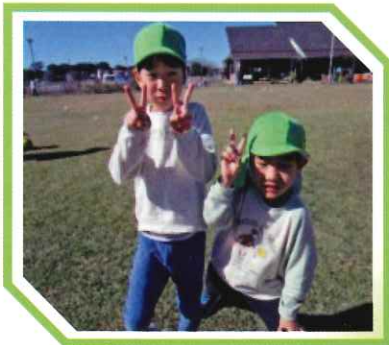


ほほえみ

No. 209

発行：千葉県保育協議会 〒260-8508 千葉市中央区千葉港4-5
2024年3月1日（令和5年度第2号）



君津支会（君津市立人見こども園）
安房支会（聖アンデレ保育園）

第67回 千葉県保育園振興大会

～すべての子どもの権利と育ちを保障していく社会の実現をめざして～

令和5年12月9日(土)ホテルポートプラザちばで『第67回千葉県保育園振興大会』が開催されました。今年度は長年に渡り保育に携わり、栄えある千葉県保育士賞(ルビー賞)を10名の皆さんが受賞されました。



千葉県保育協議会
会長 松山 益代

現代社会における子どもを取り巻く環境はより複雑になり、教育・生活・経験などの格差が広がっています。

今年4月にこども家庭庁が設立され、こども家庭審議会がこども大綱の確立に向けて基本的な方針と重要事項の答申を行いました。こども大綱が目指すこどもまんなか社会は未来を担うすべての子ども・若者が日本国憲法、こども基本法及び子どもの権利条約の精神にのっとり生涯にわたる人格形成の基礎を築き、自立した個人と等しく健やかに成長することができ、心身の状況、置かれている環境などにかかわらず等しくその権利で擁護され身体的、精神的、社会的に将来にわたって幸せな状態で生活を送ることができる社会です。

昨年度から社会では不適切保育が取り上げられ、子どもの人権について多く学ぶ機会がありました。

改めて目の前にいる子どもは人間であること、その存在、人格を尊重することを意識した行動が必要と再認識いたしました。お互いに尊重し合う他者理解や自己原因性感覚を深める同僚との対話の機会を設けて共に初めの一步を踏み出しましょう。



千葉県社会福祉協議会
会長 花島 恭一

少子化や核家族化の進展、社会経済情勢の変化などにより、子どもと子育てを取り巻く環境が大きく変化し、子育て家庭の孤立や子どもの貧困の問題が深刻さを増してきております。不安を抱える親子への対応の中核を担う皆様方に寄せられた期待はますます高まってきております。

保育関係者への支援を行うため、千葉県保育協議会の事務局を担い、資質向上に必要な研修を開催している他、経験の浅い保育士や園長などの管理者の悩みに応えるため支援員を派遣するなど巡回支援事業も実施しております。

また、保育士不足に対応するため、保育士養成施設に入学者に対する就学資金貸付事業により、令和4年度は390件の貸付を行っております。さらに保育人材の確保のため、潜在保育士の再就職支援などを行う、千葉保育士保育所支援センターを設置し令和4年度は151名の就職に結びつけることができました。

こうした様々な事業の実施により、保育関係者の支援に力を注いでおります。



千葉県副知事
黒野 嘉之 氏

本日は第67回千葉県保育園振興大会が盛大に開催されましたことを心よりお喜び申し上げます。また長年に渡り保育士の職務に清栄され本日保育士賞の敬に称された皆様には心から深くお祝いを申し上げますとともに、これまでのご尽力に対し深く敬意を表します。

全てのこどもの育ちを応援し、子育て家庭に対する支援を強化するため国においてこども誰でも通園制度の本格実施を見据えたかたちで来年度から試行的事業が実施されているなど保育を取り巻く環境は目まぐるしく変化しております。このような中、高い専門性をもつ保育士の皆様の役割は一層大きなものとなっております。

県では子どもたちが身近で豊かな自然との関りを通じて自ら考え、行動し成長しようとする力を育む環境づくりを応援するため、今年度新たに千葉県自然環境保育認証制度を創設いたしました。この制度は日々の保育に様々な自然体験活動を取り入れている保育所と認証する県独自の取り組みです。

今後は、認証団体の取り組みを県ホームページ等で広く発信し、自然環境保育を本県における保育の特徴の一つとして推進してまいります。引き続き皆様のご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。



千葉県会議長
伊藤 昌弘 氏



千葉市副市長
大木 正人 氏



保育士会感謝状伝達

おめでとう
ございます



保育士賞授与



ルビー賞受賞者
受賞を祝う会



記念公演

未来を生きる今の乳幼児の子どもに向き合う職員へ向けて
～命をつなぐことの尊さと意味～

*会員施設が視聴できるように、オンデマンド配信しました。

青山学院大学 教授
福岡 伸一 氏

千葉県保育士賞

ルビー賞受賞 心よりお祝い申し上げます

第67回 千葉県保育園振興大会



千葉県保育士賞は「千葉県保育士賞要綱」にもとづき、毎年褒章委員会にて厳正なる審査の結果、千葉県知事より決定される名誉ある賞です。

この保育園振興大会の席上において、10名の方が受賞されました。副賞には、子どもたちへの願いを込めてルビーをあしらったブローチが贈られました。

受賞された皆様の喜びの声と、これまでの保育への熱い思いをご紹介します。

御宿町立おんじゅく認定こども園 椎木 明美



末っ子の私は、幼い頃から子どもが大好きで近所で赤ちゃんが生まれると、抱っこさせてもらいました。回り道しましたが、念願叶って子どもに関わる仕事に就きました。子どもの笑顔に癒され、たくさんの感動や喜びをもらい、学ばせてもらいました。子どもはかけがえのない宝物です。そんな子どもたちと過ごした時間もまた大切な宝物です。これからも、子どもたちの健やかな成長と幸せのためにこの賞を励みに精進していきたいと思っています。

いすみ市立太東保育所 鈴木 まゆみ



子どもたちの元気な声と笑顔に励まされ保育の仕事が続けることができました。たくさん子どもたちと保護者に出会い、泣いたり笑ったりと様々な出来事が今日までの力になっています。好きな仕事に就いているのだからもう少し頑張れと言いつけて保育した日もありました。職場の先輩方や同僚・関係者の皆様の支えがあったからと心より感謝しています。今後も笑顔いっぱい子どもたちを育てる喜びを感じながら支援を頑張ります。

習志野市立袖ヶ浦こども園 荒井 喜美江



小さいころからの夢だった保育者となり、人生の半分以上を歩んできました。今まで多くの子どもたち、そして保護者の皆様との出会い「ワクワク」「ドキドキ」心躍る感動や体験をする中で、私自身も保育者として、人として育てていただいたと思っています。支えてくれた家族や職員にも改めて感謝いたします。

これからの時代を担う子どもたちの幸せを第一に、今の自分にできることに今後も微力ながら力を注いでいきたいと思っています。

茂原市立豊田保育所 石渡 よしみ



子どもの笑顔や元気いっぱい遊ぶ姿が大好きで保育士になり、たくさん子どもたちとかかわる中で、日々成長と喜びを感じ、パワーをもらい、自分自身の成長につながることができました。子どもたちとの出会いは私の宝物です。そして、これまで保育の仕事が続けられたのも、家族をはじめ、職場の先輩、同僚、多くの皆様の励ましや支えのおかげと心から感謝しています。

これからも笑顔溢れる子どもたちにたくさんの愛情をもって歩んでいきたいと思っています。

みのり保育園(市川市) 中川 一世



子どもに関わる仕事がしたいという思いから保育士になり、現在の園に就職しました。その間多く人と出会い、地域とのつながりもでき、多くのことを学び、園児・保護者・地域の子育て家庭に微力ながら力になれたのではないかと思います。この積み重ねが認められ、千葉県保育士賞をいただきました。光栄なことにこの法人では初めて、浦安市では、3人目の受賞です。

今後も次につながる職員の育成と子どもたちや地域のために、尽力させていただきます。

山武市立しらはたこども園 布施 雅子



保育園の先生に憧れて、高校生になってからピアノを習い始めた私が、今日の日を迎えることができたのも、恩師をはじめ、先輩方や同僚、家族の支えのおかげと感謝しています。元気いっぱい子どもたちと真っ黒になって遊んだ日々からは、たくさんの宝物をもらいました。また、実習生や保護者となって再会した時の喜びは忘れられません。子どもたちの輝く瞳や笑顔に囲まれ、その成長に関わられたことを誇りに、今後も歩んでいきたいと思っています。

昭和保育園(袖ヶ浦市) 市川 章子



小学校の卒業文集の将来の夢に「保母さん」と書いてありました。夢叶い、子どもたちとともに泣き笑い過ごした30年。昔、子どもだった方も、今では立派なお父さん、お母さんになり、そのお子さんを担当する経験もでき、長い目でその方の人生と関わり、見続けられるということの幸せを感じています。これからも、子どもたちからの力を受けて子どもたちが笑顔になれる保育、その子の人生の先を見つめていく保育ができたと思います。ありがとうございました。

宗吾保育園(成田市) 香取 寿江



幼い頃からの夢だった保育士の仕事につき、子ども主体で「自立」と「自律」を大切に無我夢中で保育を行ってきました。子どもたちと一緒に楽しく過ごした日々やたくさんの思い出は、大切な宝物になりました。ここまでこれたのも、今まで温かく見守ってくださった先輩や同僚、後輩たちの支えがあったおかげと心から感謝申し上げます。これからも笑顔忘れず、子どもたちの健やかな成長と幸せを願い保育を行ってきたいと思っています。

銚子保育園(銚子市) 丸山 明美



「いつもげんきですね。」と誰からも言われて43年。この元気の源は子どもたちからいただいています。毎日、ワクワク、ドキドキ子どもたちの目線で物事を見ると楽しいですね。この楽しい活動や行事ができるのも、同僚の皆様や家族の支えがあり、背中を押してくれたお陰です。また、保護者の皆様の協力もあったからこそだと思います。

今後もこの経験を活かしつつ園児、同僚、保護者の皆様と共に成長していきたいと思っています。

館山市立館野保育園 森田 真由美



子どもたちの笑顔や歓声に囲まれながら保育に携わり、35年。日々、子どもたちの成長する姿から、たくさんの感動と元気のパワーをいただいています。今回の受賞は、これまで多くの方々に支えていただいたおかげと感謝の気持ちでいっぱいです。時代の流れとともに保育情勢も変化していくなかで、この受賞を心の糧とし、これからも子どもたち一人ひとりの育ちを大切にしながら、安心した園生活を過ごせるよう務めていきたいと思っています。



幼保小の連携・実習生の受け入れについて アンケート集計結果

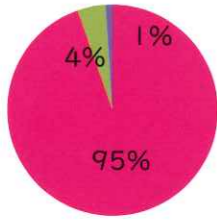


保育現場で気になること、「他の園・他の市町村の現状は？」と疑問に思うことについてアンケートをとりました。

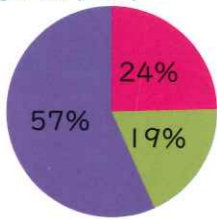
☆幼保小の連携に関して☆



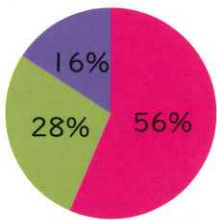
・小学校との就学前の引き継ぎがありますか？



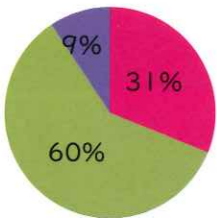
・保育要録が十分に活かされていると思いますか？



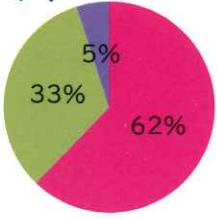
・幼保連携のための地域連絡会議等は存在しますか？



・保育者と教諭に授業参観・合同研修会は、実施されていますか？



・幼児と小学生の交流する場がありますか？



YES ● NO ● わからない ●

<データ・自由記述から>

『就学前の引き継ぎ』は95%、『地域連絡会等の存在』と『小学生との交流の場』は50%以上がYESと回答しているのに対し、その他の設問のYESの回答は30%前後となっています。また、公立・私立による大きな偏りは見られませんでした。

コロナ禍において、交流の場や連携の機会が途切れ、減少した園が多いものの、再開したとの記述が見られました。

就学前後、要録に関する記述も多く、積極的な交流や情報交換等の連携を求める記述も多くありました。

<まとめ>

連携はしているが**十分な連携は取れている**と感じている園は少なく、その必要性や重要性を感じている園は多いようです。

「幼保小連携」「架け橋プログラム」など言い方は違いますが、子どもの学びの連続性を円滑にし、一人一人の多様性に配慮した上で、学びや生活の基盤を育むことを目指すものです。

現状では、必要性や重要性を感じながらも、時間の捻出や学校側との協力体制の確立が難しいという意見もありました。

また**保育園から小学校**という流れだけでなく、「**小規模保育園から保育園**との連携はどうか？」という疑問も出てきました。

連続性・継続性のある連携をとる為、行政も含めた学校側と協力体制の構築、仕事の効率化や人材の配置・確保など、職員の負担を増やさず時間の捻出ができる環境整備が必要だと考えます。

まだまだ課題は多そうですが、「こどもまんなか」を実現するために団体を通して国や政府などに働きかけるとともに、保育・教育業界全体での結束力が問われているのではないのでしょうか？



☆実習生の受け入れについて☆



<データ・自由記述から>

回答(277件)のうち98.2%と、ほとんどの園が受け入れをしていました。年間の受け入れ数は1名8%、2~3名38%、それ以上52%という結果で、最大では年間150名もの実習生を受け入れている施設もありました。

同時期の実習生受け入れについては、一度に複数人受け入れられないとの回答が多く、コロナ禍や指導できる職員に限りがあることを理由にあげていました。

養成校に関しては、実習記録の指導案の書き方等最低限のことは指導して欲しいという意見が多くありました。受け入れ時期についても、保育園側の希望がなかなか反映されないことや、事務的な相違も不満につながっているようです。

「実習生の質の低下について」の答えは、ほぼ半々でしたが、自由記載がいちばん多くあったことが印象的でした。挨拶・報告・連絡・相談、といった社会人としての基本的な部分の不十分さ、資格取得のためだけの実習、「保育士になりたい」という意欲が感じられない学生が増えている等の意見がありました。その他、精神的に弱い、繊細等、指導や声かけに配慮しないと実習に来ることもできなくなってしまうといった指導する側が抱える悩みや問題もありました。

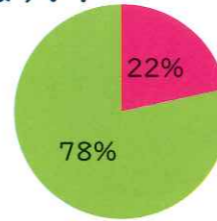
評価に関しては、ほとんどの施設が、養成校の評価基準に沿って評価を行っていました。その他は、挨拶、笑顔、明るい、素直等コミュニケーションの部分を重視しているようです。又、発達や援助方法の理解、課題意識の可視化、立案の実践など、保育の専門性の部分で評価をしている施設もありました。

<まとめ>

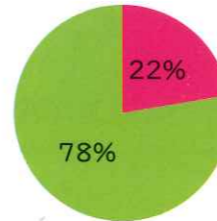
小学生の就きたい仕事ランキングトップ10にランクインする「保育士」。「保育士」を目指して資格修得までしながら保育現場に就職しない学生が大勢います。そのため保育施設などでは全国的に人材が不足してしまっています。これが昨今の保育施設を取り巻く現状であり、人材確保は喫緊の大きな課題となっています。

保育実習は、実践学習として保育士の仕事を初めて経験する機会です。今回のアンケートで見えてきた、受け入れる側の実態や思い、そして学生が抱えているであろう不安や迷い、双方がよい形で交わり、「保育士」を目指す志を大切にしながら、「保育士」の仕事の魅力を伝えていきましょう。

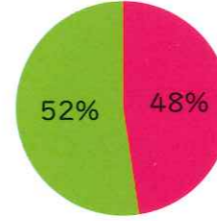
・実習を断ったことがありますか？



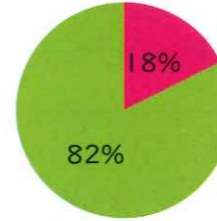
・養成校に対して、不満を感じることがありますか？



・実習に対して、質の低下を感じたことはありますか？



・実習の評価について、明確な基準を設定していますか？



今回のアンケートの回答結果の概要を期間限定で公開します。(令和6年3月31日まで)
下記のQRコードから見ることができます。



<https://x.gd/mwA1B>

お忙しい中、アンケートにお答えいただきありがとうございました。



つぶやき



オーダー…

午後のおやつの時間、保育者が牛乳をコップに注いでいると、

Aちゃん：「ねえ、先生。わたし牛乳少なめ〜」

保育者：「はい。少なめね」

Bちゃん：「わたし、牛乳おおなめ〜！」

かわいいお願いに、吹き出すのをこらえながら牛乳を注いだ保育者でした。

おばあちゃん…

「おばあちゃん家に行くといっぱいギューツとする。よく来たねえって言って。なんでかなあ」

魔法のサラダ…

野菜が苦手で、おかずのサラダはお皿に残ったままでしたが、保育士の「この野菜食べると走るのが速くなるみたいだよ」という言葉を聞いた途端、サラダをパクリ！その後暫く「先生見て！オレ速いでしょ〜」と得意げな様子で走る姿を披露していました。

大家族…

ダンゴムシ探して、植木鉢の下にダンゴムシを見つけたとき「かぞくみたい」

ソラマメ…

花壇の畑にソラマメの種を植えた後で

「はやく、めをだせ！はやく、めをだせ！」と言って、思い切りジャンプして体で表現していた。その後、ソラマメの芽が出た。

「わー めがでた！」

「お豆いっばいうめたからね」

「すごい」「おおきくなれ」

ヒラヒラヒラ…

落ち葉が風に舞っているのを見て

「葉っぱがきれい」

「葉っぱがおどってるよ」

通園バス乗車中…

窓の外を見ながら

「先生、もうりんごの季節だねえ」

何の音？…

本を見ながら

子：「ブーブーた（いた）！」

保：「本当だ！車がいたね」

子：「ブーブーた！ ブーブーた！」

次の瞬間 ブッ！！

そのタイミングの良さに保育士は大笑い。本人は何事もなかったかのように一緒に笑っていました。

春…

「冬のつぎは春なんだって。春は今、どこでまってるのかなあ」

あ と が き

コロナ前のルーティンが崩れ去り、いかに毎年試行錯誤して行ってきたことが多かったのか実感しています。

さあ来年度が頑張る時です。「明日またやれるだけやってみよう」

広報委員長